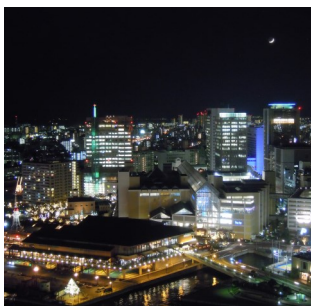


Practica

Practicaとは「実践」を意味するラテン語です

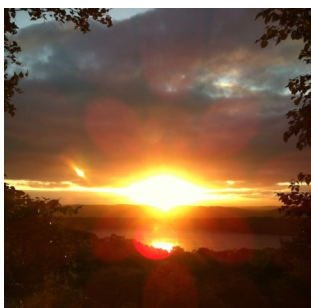
公益財団法人日本医療機能評価機構
VOL.1 2015年9月1日

I. はじめに



この冊子の紹介、企画の意図を通して、私たち評価機構が考える病院組織の継続的な質改善活動についてお伝えします。

II. 知る



第三世代の病院機能評価を受審された病院の取り組みの中から、より多くの病院にお届けしたい内容を毎号、掲載します。

- ◆ 質改善活動報告シート（期中の確認・様式2）の内容から
- ◆ 質改善活動報告シート 提出状況
- ◆ Improve（認定病院の改善事例紹介シリーズ）アーカイブズ

※ Improveは第三世代の病院機能評価を活用し、改善に取り組んだ病院の事例を紹介する小冊子です。

III. 考える



事務局がよくお問い合わせをいただく質問等から、毎号いくつかの話題を課題としてリメイクし、双方向のディスカッションを展開します。

- ◆ 今月のQuestion1 あなたの病院はどうしていますか？
- ◆ 今月のQuestion2 あなたならどうしますか？

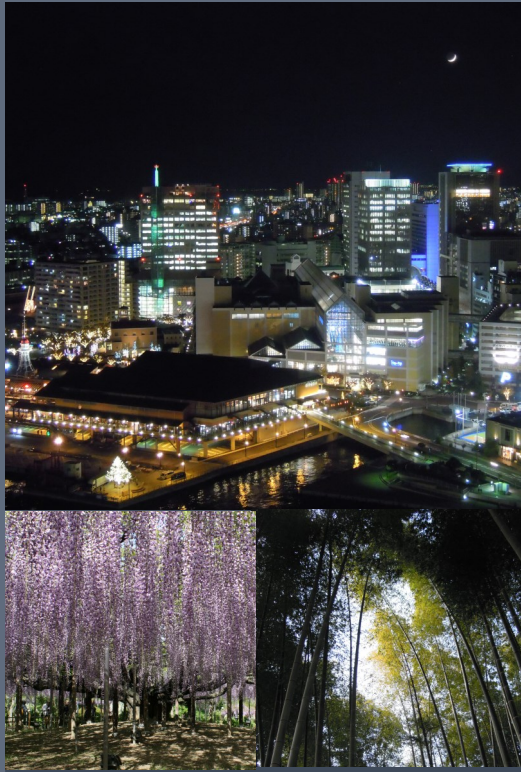
積極的に、ご意見、ご回答をお寄せください。（投稿の方法は[こちら](#)）

IV. 参加する



病院の継続的な質改善活動を支援するため、様々なサービスを用意しています。積極的にご活用ください。

- ◆ 患者安全に向けた活動を現場から発信する認定病院患者安全推進協議会
- ◆ 院内の質改善活動の中心的役割を担う人材を養成するクオリティ マネジャー養成セミナー
- ◆ 対話を通じて解決を目指す人材を養成する医療対話推進者養成セミナー



I はじめに

“継続的質改善活動とは”

このページでは、この冊子の紹介、企画の意図を通して、私たち評価機構が考える病院組織の継続的な質改善活動についてお伝えします。

「認定期間中の確認（期中の確認）」を

病院内でどのように活用されましたか？

継続的質改善活動のこと

現在運用中の第三世代の病院機能評価では、評価を通して病院組織が継続して質の改善活動に取り組むことを支援しています。

病院機能評価の受審をきっかけに、自律的な組織活動が実現され、職員の改善意欲の醸成や組織の活性化が図られていくこと、これにより医療サービスの質の向上や、安全で安心な医療の提供につながるものと考えています。

期中の確認のこと

期中の確認は、前回と次回の審査のちょうど中間点にあたります。評価項目を使って、病院内の活動の振り返りをさせていただく中で、認定からの2年間で改善がみられた点、あるいは、課題を抱えたままの点が浮き彫りになるかもしれません。

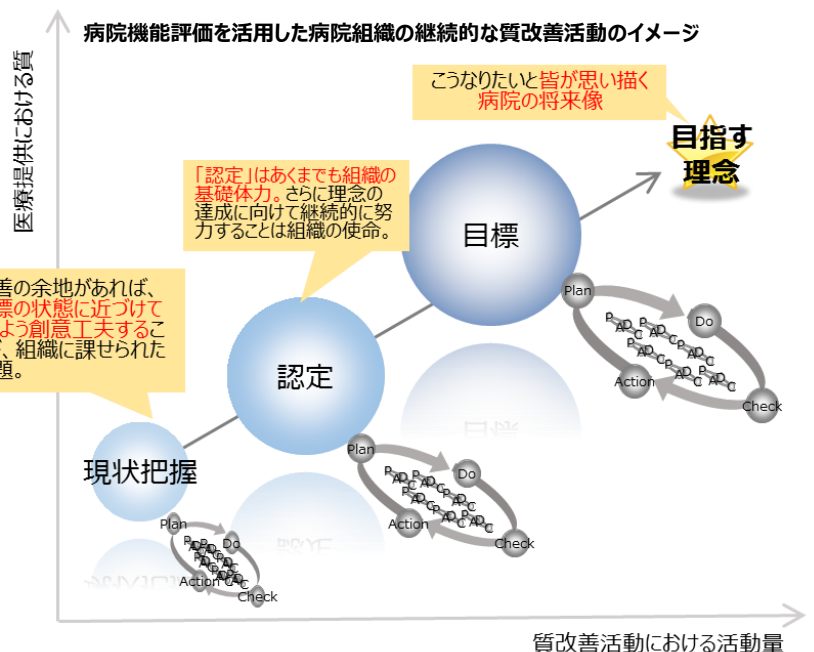
期中の確認は、審査ではありません。この機会を、病院の外からの刺激として上手く活用していただくことで、病院の質改善活動のさらなる活性化につなげていただくことを心から期待しております。

この冊子のこと

継続的な質改善活動が大事なことは伝わってきた---、では、具体的に何をすればいいのでしょうか？

この冊子は、それらの声に応えるべく、様々な事例や考え方あるいはイベントの紹介を通して、それらのヒントを提供していきます。

取り上げてほしい話題や、情報があればお気軽にご意見をお寄せください。





Ⅱ 知る

“他施設での取り組み”

期中の確認において「質改善活動報告シート」にてご提出いただいた内容や、制作している冊子などから、多くの病院にお伝えしたい内容をピックアップしてご紹介していきます。

質改善活動報告シートから 今月のテーマ「医療安全」

「医療安全」と一口に言っても、薬剤の安全な使用や、転倒・転落防止、患者取り違え防止の対策、医療事故等の対応など、病院が抱える課題は非常にたくさんあります。

今回は、病院よりご提出いただいた改善事例の中から、皆様にご紹介したい病院独自の取り組みとして、2つの事例を取り上げます。

1事例目の「医療安全の声の収集」は、医療安全の対策を講じるために「職員の目」を活用している点、また、事故が起きてからではなく、未然に防ぐために声を収集しているという点が、非常に興味深い事例です。

2事例目の「安全確保のための身体抑制の見直し」は、課題に対する病院の方針を定め、かつ、その方針が、フローチャートの更新により職員へ意識づけされているという点が、非常に興味深い事例です。2事例目の病院は、「医療安全」をテーマにした事例だけでも、7つの取り組みについてご報告がありました（！）。各担当者が悩みながらも、日頃から積極的に質改善のために議論を重ねている様子が見えます。ぜひ、皆様の病院の活動の参考になさってください。

期中の確認の運用を開始して、8月末で4ヶ月が経ちました。当初の事務局の予想より、はるかに多くの病院から改善事例をご提出いただき、今回どの事例を取り上げるか非常に悩みました。ご提出いただいた事例は、出来る限りご紹介したいと考えておりますので、今後、本冊子以外でも取り上げていくことを検討してまいります。



事例 1 : 「医療安全の声」の収集

【受審時の機能種別】

一般病院 1 (一般病床 40 床)

2014年 B S C (※) 医療安全の活動目標の中で、医療安全向上を図る仕組みとして新たに導入した、危険予知の活動。

【目的及び意義】

当院の医療安全に関する基本方針に鑑み、医療事故発生のリスク回避を目的とし、職員の医療安全に対する参画意識の向上により、更なる患者の安全確保を図る。

危険を予測し、予見した事故を未然に防ぐことで、重大事故の発生を回避する。

【対象】

当院に従事するすべての職員



【活動内容】

- (1) B S C 発表会や、各部署の医療安全委員を通じて、「医療安全の声」を募集する事を周知した。
- (2) あげられた「医療安全の声」を、医療安全部カンファレンスにて議論し、適宜、医療サービス対応事務局・感染委員会・医療安全委員会・経営管理部等へ、報告・検討依頼し改善を図った。
- (3) 改善対策が実施されているか、医療安全管理ラウンドで確認を行った。
- (4) 2014年6月より導入し、10ヶ月で8件の声が寄せられた。改善された内容は、
 - ・当院屋上は、防災上避難場所になっている為施錠できないので、立ち入る患者がいる。
→医療サービス対応事務局で検討し「屋上立ち入り禁止のお願い」という、掲示看板が設置された。
 - ・内視鏡検査時に、落とせないマニキュアをつけて来る方が増えたが、状態変化の観察に支障がある。
→事務部へ依頼し検査準備表に、「緊急時に対応できない危険があるため、マニキュア等は、必ずはずして来院」という、注意喚起の文章を追加した。など、6件の改善対策が実施された。

【工夫した点】

当該「医療安全の声」のポイントは、事故が起きてから改善するのではなく、職員が危険を予知した段階で声として通報し、事故を未然に防ぐことにある。危険予知活動の一つ。改善結果は、食堂に掲示する事で、周知を図った。

※BSC…バランストスコアカード (Balanced Scorecard)。経営戦略を策定し実現するためのツールである。経営諸活動を、財務、顧客、内部業務プロセス、学習・成長の視点から分析し、戦略を実践するための具体的なアクションを識別して管理することを意図している。

参考文献：飯田 修平/飯塚 悦功/棟近 雅彦【監修】、医療の質用語事典編集委員会【編著】(2005)『医療の質用語辞典』日本規格協会

事例 2 : 身体拘束・抑制と転倒対策フロー図のバージョンアップおよび監査の仕組み

【受審時の機能種別】

リハビリテーション病院（一般病床 3 5 1 床）

【活動の背景・きっかけ】

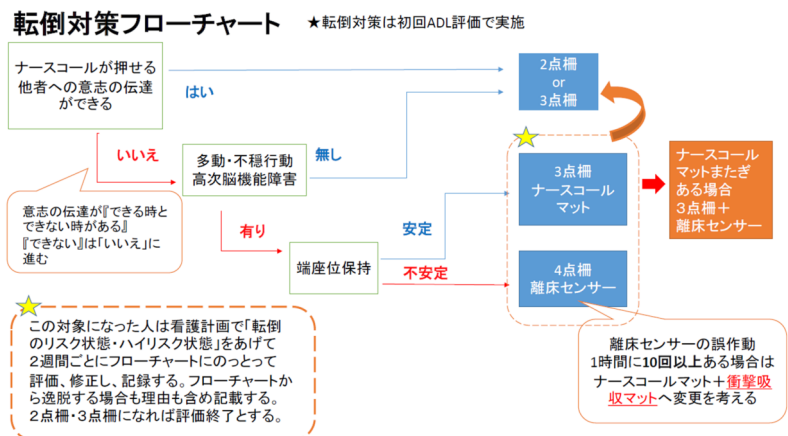
回復期リハビリテーション病棟（以下、回り八病棟）では、一人で移乗動作をする可能性のある人に対して基本的に「4点柵」を使用していた。

患者の権利を守る観点より4点柵は身体拘束とみなされるため、本人の活動能力に合わせた環境（ベッド柵の設置）が提供できるためのフロー図を担当各位とともに更新した。

【活動の内容・成果】

ベッド柵を乗り越えての転落事故をきっかけに、4点柵の使い方・使用数について検証（2014年4月時点では病棟の半数の患者が4点柵にしていた）。患者権利を守る観点から討議を重ねた結果、基本的な対応策として4点柵設置から開始するのではなく、まずは3点柵設置を基本とすることを意識づけ、安全面・機能面から必要最小限の身体抑制となるよう考慮し、転倒対策フロー図を更新した。

3点柵を有効に活用するためには、どのような道具との組み合わせが効果的であるか検証し、必要な物品・台数を医療安全委員会にて答申。4点柵設置の対象数の減少と共に、回り八病棟への離床センサー・衝撃吸収マット数も充足されるに至った。



※転載厳禁

【工夫・アピールポイント】

患者の安全を守るための対策として活用していた「4点柵設置」が、身体抑制の観点からみると患者の権利を侵害することにつながるため、「安全」をとるか「権利」をとるか、その狭間で設置基準を設定することに担当各位が苦心した。

今回、患者の能力に応じ転倒対策のフロー図を更新することより、基本的な考え方として、4点柵設置から考えるのではなく、3点柵の活用から考えるように意識づけされた。

患者の「安全」と「権利」、その両立から見た対応フローとなった。

質改善活動報告シート 提出状況

2015年5月～7月に期中の確認を実施した病院より、質改善活動報告シートの提出状況についてお知らせいたします。病院機能評価の項目にとらわれず、院内のさまざまな医療の質改善事例をお寄せいただいております。

※都道府県順

- 社会医療法人 禎心会病院（北海道）
- 八戸赤十字病院（青森県）
- 筑波大学附属病院（茨城県）
- 特定医療法人社団慶友会
慶友整形外科病院（群馬県）
- 医療法人財団献心会 川越胃腸病院
（埼玉県）
- 川口市立医療センター（埼玉県）
- 医療法人埼玉成恵会病院（埼玉県）
- 医療法人社団永生会 南多摩病院（東京都）
- 長野県厚生農業協同組合連合会
鹿教湯三才山 リハビリテーションセンター
三才山病院（長野県）
- 岐阜市民病院（岐阜県）
- 名古屋市立大学病院（愛知県）
- 社会福祉法人京都社会事業財団
西陣病院（京都府）
- 社会医療法人大道会 森之宮病院（大阪府）
- 社会福祉法人恩賜財団済生会支部
大阪府済生会千里病院（大阪府）
- 特定医療法人三栄会 ツカザキ記念病院
（兵庫県）
- 医療法人社団うすい会
高陽ニュータウン病院（広島県）
- 医療法人社団光仁会 梶川病院（広島県）
- 済生会山口総合病院（山口県）
- 医療法人徳洲会 福岡徳洲会病院（福岡県）
- 宗教法人 聖フランシスコ病院会
聖フランシスコ病院（長崎県）
- 医療法人社団明心会 あおば病院（熊本県）
- 医療法人慈風会 厚地脳神経外科病院
（鹿児島県）
- 医療法人おもと会 大浜第一病院（沖縄県）

ご提出ありがとうございました！！

Improve（認定病院の改善事例紹介シリーズ）アーカイブズ

病院機能評価を活用して質改善活動に取り組んでいる事例を紹介しています。（詳細をご覧になりたい記事をクリックしてください）



VOL.1 慢性期病院 「医療法人社団 明芳会 新戸塚病院」

～改善風土の定着が組織を革新～

VOL.2 一般病院1 「医療法人 杏仁会松尾内科病院」

～10年ぶりの第三者評価で強みと弱みを再発見～

VOL.3 一般病院2 「国立大学法人 信州大学医学部附属病院」

～自発的な内部監査によって病院全体の質向上～



Ⅲ 考える

“Questions & Answers”

病院の皆様から質問の多い事項や、審査において議論になりやすい内容をQuestions & Answersとして展開し、他の病院の取り組みや考え方を提供していきます。

今月の Questions テーマ「医療安全」

期中の確認を実施してみて、「院内での課題を再確認することが出来たけれど、具体的な改善策が思うように実施できない」「病院機能評価を実施後、質改善のための活動を院内で実施しているけれど、なかなか成果につながっていないかも…」と、頭を抱える方は、少なからずいらっしゃるのではないのでしょうか。

今回、「医療安全」をテーマに、[次頁に2つの問いをピックアップしました](#)。いずれも審査時に何らか指摘を受けやすい事項です。

Question 1 の「口頭指示の情報伝達エラーの防止」は、やむを得ず口頭指示が出た場合には、その後の情報伝達や実施後の確認について、病院によって様々なルールがあると思います。ぜひ、皆様の病院の取り組みを教えてください（ご意見の応募方法については、次頁の[「Questions & Answers 応募方法」](#)をご参照ください）。

また、Question 2 の「アクシデント・インシデントの分析」は、院内で対策を検討後、現場への周知・実践が鍵となるのではないかと思います。この問いは、皆様の病院で既に実践されている、いないに関わらず、皆様自身であればどのように対応するか、自由なご意見を募集いたします。

皆様にいただいたご意見の中から、いくつかのご意見を次号で紹介させていただきます。

また、「他の病院（人）の対策や考え方を知りたい！」「実施できたら良いことなのは分かっているけど、自分の病院ではうまくできない…」というテーマや課題がありましたら、こちらもご意見を募集いたします。

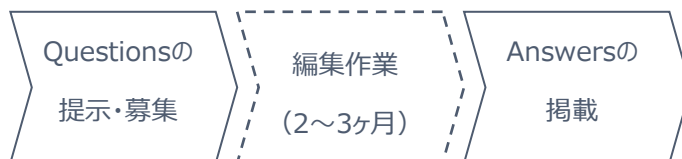
期中の確認に既に取り組みされた病院に限らず、今後受審を控えた病院の皆様からのご意見もお待ちしております。



Questions & Answers とは？

病院の皆様からお寄せいただく疑問、質問や、審査に向かったサーベイヤーチームで議論になる事項を参考に、「問い」という形で、情報提供いたします。まず、「Questions（問い）」に対して回答を募集します。その後、事務局で内容等を編集し、「Answers（回答）」欄にて皆様から寄せられた回答や、サーベイヤーからのコメントを掲載します。

このQuestions & Answersを積極的な情報交換の場としてご活用ください。



Questions & Answersの記事作成の流れ

Question1 あなたの病院はどうしていますか？

やむを得ず口頭指示が出された場合、情報伝達エラーを防ぐためにどのような工夫をしていますか？

Question2 あなたならどうしますか？

あなたは、あなたの病院内に新しく設置された医療の質向上委員会のメンバーです。

アクシデント・インシデントに関して、それぞれの部署からの報告が集まっています。その後の分析や検討について、医療安全推進委員会で各担当者による議論が行われ、数日後、院内報を通じて、対策が周知されました。しかしながら、1ヵ月後の院内ラウンドの結果、現場では充分に対策が行われていないことが医療安全推進委員会から報告されました。

この状況を改善するために、あなたはどのような取り組みが出来るでしょうか？PDCAサイクルに沿って考えてみてください。

Questions & Answers の応募方法

下記事項をご記載の上、メール（jushin@jcqhc.or.jp）で事務局にお送りください。



- (1) 件名：Practica
- (2) ご応募内容：① Questions または Answers ② 内容
- (3) ご所属（公開いたしません）：
- (4) 職種・お名前（公開いたしません）：
- (5) 掲載時、貴院の審査体制区分を公開してよろしいでしょうか：はい・いいえ

※お送りいただいた内容は、当機構の個人情報保護方針に則り適切に取り扱いをいたします。



IV 参加する

Events

病院機能評価事業は、病院の継続的な質改善活動を支援するための学びの場を多数企画・提供しています。ぜひ、積極的にご参加ください！

活動に参加しませんか？

認定病院患者安全推進協議会

認定病院の有志により構成された協議体です。**患者安全について**、緊急性が高い課題に応じて部会・検討会を設置して種々の検討を行っています。議論の成果は、患者安全推進ジャーナルの発刊や、提言・指針の発信等により、全国の病院の皆様還元しています。

2015年8月末時点で1370余病院が会員病院として所属しており、5部会・4検討会の体制で種々の目的で活動を企画・運営しています。なお、参加には病院としてのお申し込みが必要です（[次頁参照](#)）。

クオリティ マネジャー養成セミナー

病院内で、**質改善活動の中心的役割を担う人材（クオリティ マネジャー）**を養成する研修プログラムです。

クオリティ マネジャーとして、医療の質に関する評価・分析を行う知識やスキル、組織横断的に多職種で協働するためのリーダーシップやマネジメントスキル、病院の継続した質改善活動のための仕組み作りなど、4日間の研修・課題と継続研修等を通して継続的に情報提供を行います。

医療対話推進者養成セミナー

『医療コンフリクトマネジメント』という考え方を基盤に、**病院内で、患者・家族と医療機関の職員の間で生じた様々な問題等について、対話を通じて解決を目指す人材（医療対話推進者）**を養成するプログラムです。

なお、2015年10月1日より、医療対話推進者養成セミナー修了者を対象に、認定・更新制度の運用を開始しました。

活動紹介

認定病院患者安全推進協議会

概要

認定病院患者安全推進協議会（PSP）では、会員病院の皆様の声をもとに、医療安全に関わる様々な目標やテーマを設定します。そして、部会や検討会を組織し、全国の会員病院にとって必要な情報、ツール、あるいは情報交換場の提供を目指して議論を重ねています。

医療安全を確保することは、医療の質向上において、重要な要素です。継続的な質改善活動の実践に、協議会活動にぜひご参加ください。活動内容の詳細は[こちら](#)から。

患者安全推進ジャーナル 最新号

(No.40 2015年6月発刊)

【事例】 セントラルモニタの患者表示入れ替わり

【特集】 生体情報モニタアラームのコントロール

※ バックナンバーは[こちら](#)から。



入会のご案内

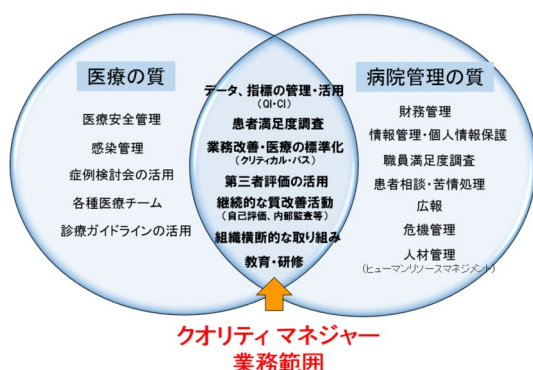
認定病院患者安全推進協議会のイベントや活動に参加するためには、病院としてお申し込みを頂き、会費をお支払いいただく必要があります。

ご入会の方法については[こちら](#)をご覧ください。

クオリティ マネジャー養成セミナー

概要

本セミナーは、4日間のプログラムとなっており、1・2日目に、医療の質の評価、改善活動を推進するために必要な、知識やスキルを学びます。そして、約1か月の期間で自院のデータを用いて改善活動の実施計画を作成します。3・4日目には、計画した改善活動をより効果的に実施するためのマネジメントスキルを学び、多職種でのグループワークを通してクオリティ マネジャーとしての実際の活動イメージを描きます。



最近の取り組みより

効果的なセミナーの受講と継続的な学びの場を提供するために、今年度よりeラーニングを用いて、質改善に関する情報や学習コンテンツの提供を開始しました。



事務局担当より認定病院の皆様へ

本セミナーは、病院の継続的な質改善活動の中心となる方を対象に、質評価の視点や改善点の抽出スキル、改善策の立案、プロジェクトマネジメント等、質改善活動に必要な知識やスキルを身に付けることを目的に行っています。病院機能評価の受審や期中の確認を、より意味のあるものにするために、是非ご活用ください。

医療対話推進者養成セミナー

概要

本セミナーは前記の認定病院患者安全推進協議会にて開発されたプログラムで、2013年度より全国の医療機関を対象に提供しております。

プログラムは医療安全の基礎知識や医療機関における取り組み事例を紹介しながら、基本的な知識を学ぶ「導入編（1日）」と、グループワークやロールプレイを通じ、医療者と患者・家族の対話スキルを学ぶ「基礎編（2日）」の二部構成になっており、現在までに約870名の医療対話推進者の養成を行っております。

最近の取り組みより

2015年10月1日より、修了者の継続的な学習の促進と質の維持・向上を目的として、「医療対話推進者 認定・更新制度」を導入することとなりました。詳細は2015年9月発行の「NEWS LETTER」をご参照ください。

事務局担当より認定病院の皆様へ

本セミナーは日本医師会と共同開催をしており、2014年度より東京だけでなく全国各地での開催も行っております。お近くで開催の際は奮ってご参加ください。

イベント カレンダー

	認定病院患者安全 推進協議会	クオリティ マネジャー 養成セミナー	医療対話推進者 養成セミナー
2015年 9月	15日 薬剤安全セミナー① 18日 CVC研修会② 24日 薬剤安全セミナー② 25-26日 院内自殺予防 研修会①	10-11日 クオリティ マネジャー 養成セミナー②・前半	6日 継続研修① 12-13日 基礎編⑤
10月	8日 検査・処置・手術安全 セミナー①	30-31日 クオリティ マネジャー 養成セミナー②・後半	8日 導入編 24-25日 基礎編⑥
11月	13日 CVC研修会③	27-28日 クオリティ マネジャー 養成セミナー③・前半	7-8日 基礎編⑦ 14-15日 基礎編⑧（埼玉県）
12月	1日 施設・環境・設備安全 セミナー① 25-26日 院内自殺予防 研修会②		26-27日 基礎編⑨（大阪府）

価格表

	認定病院患者安全 推進協議会	クオリティ マネジャー 養成セミナー	医療対話推進者 養成セミナー
対象	認定病院（法人）	医療従事者（個人）	医療従事者（個人）
日程	（活動内容による）	4日間（2日間+2日間）	・導入編 1日間
価格（税込）	年会費 60,000円	120,000円	・導入編 10,000円 ・基礎編・導入編セット 45,000円

※お申し込み等の詳細な情報は、[当機構のホームページ](#)をご覧ください。その他、ご不明な点がございましたら評価事業推進部（TEL:03-5217-2326）までお問い合わせください。

お知らせ（事務局から）

[機能種別版評価項目のバージョンがVer.1.1になりました](#)

病院機能評価は、機能種別版評価項目の評価項目・解説集の内容を一部改訂いたしました。2015年4月よりVer.1.1として運用を開始しています。

[『次世代医療機能評価のアジェンダ』を掲載しました](#)

創立20周年を機に、より一層 病院機能評価事業を充実させるため、次世代の医療機能評価における方向性をビジョンとして策定し、ビジョン達成に向けた施策を「次世代医療機能評価のアジェンダ」として取りまとめました。

[その他、ご意見・ご要望はこちらから](#)

本冊子に関するご意見・ご要望をお聞かせください。また、病院機能評価事業に関するご意見もお気軽にお寄せください。

Mail : jushin@jcqhc.or.jp Tel : 03-5217-2326

発行：公益財団法人日本医療機能評価機構 評価事業推進部

〒101-0061 東京都千代田区三崎町1-4-17 東洋ビル

TEL : 03-5217-2326（評価事業推進部 久米・馬塚）

<http://jcqhc.or.jp/>



公益財団法人 日本医療機能評価機構
Japan Council for Quality Health Care